

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2007～2009

課題番号：19203033

研究課題名(和文)

東アジア地域における学校改革研究の拠点形成

研究課題名(英文)

Establishment of Research Center on School Reform in the East Asian Area.

研究代表者

佐藤 学 (MANABU SATO)

東京大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：70135424

研究成果の概要(和文)：東アジア諸国の学校改革の研究拠点を韓国、中国、香港、シンガポール、日本において形成し、これらの研究拠点のネットワークにより、「学びの共同体」のヴィジョンと哲学にもとづく学校改革の実践的、理論的研究を遂行した。さらに、本研究プロジェクトは、上記の諸国とその周辺諸国の学校改革政策とその実践に貢献し、改革のネットワークは本研究終了後も継続している。

研究成果の概要(英文)：This research project has established keystones of developmental research centers for renovating school reform in such East Asian countries as North Korea, China, Hong Kong, Singapore and Japan. The centers establish a powerful research network for innovating schools based on a vision and philosophy of school as learning community. As a result, this project has been reflected on school policies and its practice of the above nations and their schools.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	9,300,000	2,790,000	12,090,000
2008年度	9,900,000	2,970,000	12,870,000
2009年度	7,500,000	2,250,000	9,750,000
年度			
年度			
総計	26,700,000	8,010,000	34,710,000

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：学校改革、東アジア型教育、学びの共同体、教育政策、授業改革

## 1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初、東アジア諸国は産業主義社会からポスト産業主義社会(知識基盤社会)への急速な変化を背景として、中央集権的効率性、受験競争などに象徴される「東アジア型教育」からの脱皮をはかり、学校改革をラディカルに推進していた。その特徴はプログラム型のカリキュラムからプロジェクト型のカリキュラムへの移行、一斉授業の様式から協同学習の様式への転換、授業研究に

よる教師の専門性の開発などに現れている。この変化と対応して、新たな学校教育のヴィジョンと哲学が求められ、研究代表者・研究分担者の提唱する学校改革研究と授業改革研究は、東アジア諸国の多くの教育研究者、教師の関心を集めていた。

本研究は、この背景とそれまでに築いていた研究ネットワークを基盤として企画され実施された。

## 2. 研究の目的

本研究は、東アジアの諸国における学校改革の比較研究と協同研究の国際的な研究拠点を形成し、この地域の教育研究者、教育政策決定者、教師の研究と実践の国際貢献の持続的ネットワークを形成することを目的としている。

## 3. 研究の方法

本研究は、上記の目的を達成するために、東アジア諸国（韓国、香港、シンガポール、中国、台湾、日本）およびその周辺諸国（インドネシア、ベトナム、マレーシアなど）の学校改革の比較研究を推進するとともに、拠点大学や教育省や地方教育委員会との連携により、協同のアクション・リサーチ、政策立案とその実験的試行を行い、さらには、それらの諸国において国際シンポジウムを開催し、研究拠点の開発と研究ネットワークを形成した。

## 4. 研究成果

本研究は、①国際シンポジウム、個別研究、調査報告の蓄積、②東アジア各国における研究拠点の形成と連携、③東アジア各国における政策立案とアクション・リサーチの展開、④学校改革研究の専門家ネットワークの形成と若手育成の4つの成果を達成した。①の成果は、各年度における報告書（総括報告書を含む）において詳細に記録している。②については、中国の華東師範大学、北京大学、シンガポールの国立教育研究所、香港の香港教育学院、台湾の台北市立教育大学、韓国のハジャ・センターなどが研究拠点となった。③については、本研究の一部が、シンガポール、中国、韓国の教育政策に影響を与えたほか、ソウル市教育委員会、京畿道教育委員会、上海市教育委員会、ハルビン市教育委員会の学校政策に採用されるなど、当初の期待以上の成果がえられた。④については、本研究を通じて各国の学校改革の代表的研究者との持続的な協同研究のネットワークが形成され、さらに留学生の大学院生の研究支援、および、中国、韓国、インドネシア、ベトナムの教育行政官と教師の研修プログラムを毎年実施することにより、この地域の学校改革の主体的な担い手の養成を行った。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計19件）

- ① 勝野正章「学校評価は学校教育の何を評価するのか」『学校運営』、2010年8月号、pp.6-1. 査読無
- ② M. Katsuno (2010) Teacher Evaluation at Japanese Schools: an examination from micro-political or relational viewpoint, *Journal of Education Policy* 25 (3) pp.293-307 査読有
- ③ 勝野正章「教育政策決定における職能団体としての教頭会の役割」『学校運営』、2010年1月号、pp.6-11. 査読無
- ④ 勝野正章「求められている二つの改革 教師の地位向上と教師教育・研修の再構築」『教育と医学』、No.674、2009年8月、pp.13-20. 査読無
- ⑤ 勝野正章「学校における評価と競争—事実と科学的検証に基づく議論を」『学校運営』、2009年6月号、pp20-23. 査読無
- ⑥ 勝野正章「全国学力調査・評価・PDCA体制を乗り越えるということ」『教育』、2009年2月号、No.757、pp.23-30. 査読無
- ⑦ Manabu Sato, Philosophy on the Restoration of Schools in Japan, *Journal of All India Association for Educational Research*. Vol.20. No.3-4, September and December 2008. Pp.14-26. 査読有.
- ⑧ 勝野正章「教師を判定、評価、比較することの意味」『高校生活指導』2008年夏季号、No.177、pp.52-57. 査読無
- ⑨ M. Katsuno & T. Takei (2008) School evaluation at Japanese schools: policy intentions and practical appropriation, *London Review of Education*, vol.6. issue.2, 171-181. 査読有
- ⑩ 佐藤学「新学習指導要領における学力政策のディレンマ」(『日本教育政策学会年報』第15号 2008年6月 pp.8-20. 査読有
- ⑪ 勝野正章「教員評価・学校評価のポリティクスと教育法学」『日本教育法学会年報』第37号、2008年3月、pp.19~30. 査読有
- ⑫ 佐藤学「リテラシー教育の現代的意義」(日本教育方法学会『教育方法36』2007年10月 pp.12-19. 査読有

⑬勝野正章・但馬徹哉「教員評価・学校評価の本質的問題とはなにか」『教育』、2007年8月、No. 740、pp. 79-86. 査読無

⑭勝野正章「教育の目標管理と質の保障—国家のヘゲモニック・プロジェクト」『日本教育政策学会年報』第14号、2007年7月、pp. 8～21. 査読有

⑮勝野正章「新教育基本法制と教育経営—『評価国家』における成果経営のポリテクス—」『日本教育経営学会紀要』第49号、2007年6月、pp. 2～12. 査読有

⑯佐藤学「学校再生の哲学」(『現代思想』青土社 2007年4月 pp. 93-105. 査読無

⑰恒吉僚子「日本における多文化教育を考える」『アジア遊学』104号(現代日本をめぐる国際移動 特集) 勉誠出版、2007、134-140. 査読無

⑱Ryoko Tsuneyoshi, The Portrayal of “Foreigners” in Japanese Social Studies Textbooks: Self-Images of Mono-Ethnic Pluralism, *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, No. 2 (教育学会 Japanese Educational Research Association), 2007: 31-44. 査読有

⑲秋田喜代美「授業研究の新たな動向: 「実践化」の視点から」日本家庭科教育学会誌, 49(4), 249-255. 2007. 1. 査読有

[学会発表] (計18件)

①Manabu Sato, Issues on Transformation among Ideas of Curriculum Reform, Textbooks and Practices; A Viewpoint from Japan. Invited Keynote Speech, 2010 International Conference on Issues of Curriculum Transformation in East Asia, National Institute of Compilation and Transformation & Taipei Municipal University of Education, Taiwan, November 5, 2010.

②Manabu Sato, Cultural Politics and the Practical Discourse of School Reform in Globalized Japan, Invited Keynote of the Symposium “Globalization and Education in Japan: Borders and Risk in the Imaging Japanese Education”, World Congress of Comparative Education Societies, Istanbul, Turkey, June 17, 2010.

③Manabu Sato, Retrospect and Prospect of Lesson Studies in Japan, Invited Keynote Speech APS 2010 Lesson Study Conference, Singapore, June 4 2010.

④ Manabu Sato, School Reform toward Learning Community: In Defense of Public Education against Neo-Liberal Policies, Invited Keynote Speech, APS Global Education Conference 2010, Academy of Principals in Singapore, June 3 2010.

⑤Manabu Sato, Japanese Lesson Studies: Looking Back and Thinking Forward, Invited Keynote Speech, World Association of Lesson Studies, Hong Kong Institute of Education, December 2, 2008.

⑥佐藤学「学びの共同体づくりの学校改革—その理論と実践」(通訳: 于莉莉 咸陽師範学院名誉教授授与講演 咸陽 中華人民共和国 2008年10月13日)

⑦佐藤学「教職専門性の開発と小学校中学校教育の質の保障」(通訳: 沈曉敏 華東師範大学教育学院・東京大学教育学研究科学術交流シンポジウム・記念講演、華東師範大学・上海・中華人民共和国 2008年10月11日)

⑧Manabu Sato, Reforma en la escuela hacia comunidades de aprendizaje en Japon. Cambios Educativos Mexico-Japon, CINVESTAV-El Colegio de Maxico, 17-19 Septiembre 2008, Mexico.

⑨佐藤学「日本と中国の教育研究の対話」(東

京大学教育学研究科・華東師範大学教育学院  
学術交流シンポジウム基調報告、東京大学、  
2008年7月19日)

⑩佐藤学「リテラシー概念とその教育—言語  
教育政策の批判的検討」(日本言語政策学  
会・関東地区大会基調講演 早稲田大学  
2008年6月14日)

⑪Manabu Sato, Philosophy and Practical  
Strategies of School Reform toward  
Learning Community, Invited Speech at 2008  
International Conference on Theory and  
Practice of Curriculum and Instruction  
Reform. 花蓮教育大学 台湾 2008年5月  
23日)

⑫Manabu Sato, Curriculum Dilemma under  
Globalized Japan, Invited Speech, 台南大  
学 台湾 2008年5月21日)

⑬佐藤学「グローバル化する日本の学校カリ  
キュラムの改革=政策のディレンマ」(講演  
通訳:沈曉敏 華東師範大学 上海 中華人  
民共和国 2008年5月6日)

⑭Manabu Sato, Inovating Research on  
Teaching through Redefining Learning,  
Invited Speech, Seoul. National  
University, Center for Teaching and  
Learning, Seoul Korea, April 25 2008.

⑮Manabu Sato, Conflicts of School  
Curriculum in Japan under Globalization,  
Invited Speech, Korean Society for  
Curriculum Studies, Ewha Woman University,  
Seoul Korea, April 25 2008.

⑯Manabu Sato, Children Living in At-Risk  
Society; Foudations of Educational Crisis  
under Neo-Liberal Educational Policies in  
Japan, XIII World Congress of Comparative  
Education Societies, Sarajevo, Bosnia,  
September 4, 2007

⑰佐藤学「言語教育の展望=転換期の課題」

(基調講演 日本学術会議言語文学委員会  
公開シンポジウム「日本語の将来—言葉の教  
育はどうあるべきか」立教大学 2007年7月  
21日)

⑱佐藤学「グローバル時代の学校改革=リテ  
ラシーの変容」(日本カリキュラム学会第1  
8回大会課題研究「グローバル化の中の学力  
問題とカリキュラム」報告 埼玉大学 2007  
年7月7日)

[図書] (計14件)

①佐藤学『学校的挑戦=創建学習的共同体』  
(『学校の挑戦』中国語版) 鐘啓泉訳 華東  
師範大学出版会 中華人民共和国 2010年8  
月)219ページ

②Lewis, C. C.、Akita, K. & Sato, M. 2010  
Lesson study as a human science. National  
Society for the study of Education,  
Vol.109(1), 222-237

③秋田喜代美・藤江康彦 2010.3 『授業研  
究と学習過程』放送大学教育振興会 265ペ  
ージ

④秋田喜代美(編)2010.2 『教師の言葉と  
コミュニケーション 教室の言葉から授業  
の質を高めるために』教育開発研究所 207  
ページ

⑤Ryoko Tsuneyoshi, Cultural  
Diversification and Japanese Education:  
Social Constructions of the New Diversity,  
in *The International Encyclopedia of  
Education*, vol.1, 3rd Edition, edited by  
Penelope Peterson, Eva Baker, and Barry  
McGraw, Oxford: Elsevier, 2010,  
pp. 787-792.

⑥佐藤学『教師花伝書—専門家として成長す  
るために』小学館 2009年 206ページ

⑦佐藤学 “교육개혁을 디자인한다”  
孫于正訳 (『教育改革をデザインする』韓国  
版, 再出版) Lifelong Learning Books: Seoul,

Korea, November 2009. 177 ページ

⑧秋田喜代美 2009.9 「「保育」研究と「授業」研究—観る・記録する・物語る研究—」

p177-188. 日本教育方法学会編 『日本の授業研究 下巻 授業研究の方法と形態』学文社

⑨秋田喜代美 2009.8 「教師教育から教師の学習過程研究への転回—マイクロ教育実践研究への変貌」『変貌する教育学』世織書房 pp45-76.

⑩恒吉僚子「グローバル化社会における学力観」基礎学力研究開発センター『基礎学力を問う』第3章、東大出版協会、2009年、55-79.

⑪恒吉僚子「新たな日本の教育改革と‘危機’論争」ラリーマクドナルド編 『世界から見た日本の教育』(リーディングス 日本の教育と社会 20巻), 2009年, 225-254. 日本図書センター

⑫秋田喜代美・キャサリンルイス 2008.6 『授業の研究 教師の学習：レッスンスタディへのいざない』明石書店 pp219

⑬秋田喜代美 2008.4 「教師の学習としての授業研究」無藤隆・麻生武(編)『質的心理学講座第1巻 育ちと学びの生成』東京大学出版会 pp107-128.

⑭恒吉僚子「文化の境界線から社会をひもとく—質的社会学からの問題提起」無藤隆・麻生武編第一巻『育ちと学びの生成』(質的心理学講座)東京大学出版協会、2008、217-232。

[その他]

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

佐藤 学 (MANABU SATO)

東京大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：70135424

### (2) 研究分担者

秋田 喜代美 (KIYOMI AKITA)

(東京大学・大学院教育学研究科・教授)

研究者番号：00242107

恒吉 僚子 (RYOKO TSUNEYOSHI)

(東京大学・大学院教育学研究科・教授)

研究者番号：50236931

勝野 正章 (MASAAKI KATUNO)

(東京大学・大学院教育学研究科・准教授)

研究者番号：10285512

### (3) 連携研究者

馬越 徹 (UMAKOSHI TORU)

(桜美林大学・大学院国際学研究科・教授)

研究者番号：60000030

北村 友人 (KITAMURA YUTO)

(上智大学・総合人間科学部・准教授)

研究者番号：30362221